

# 「幼保小の架け橋プログラム」の開発・実践

土岐市教育委員会 教育研究所

## 1 始めに

土岐市では、市教育振興基本計画『夢・絆プラン』を受けて、幼・保・小・中の「接続」の充実を図りながら、子どもの育ちと学びをつなぐ教育を推進しています。幼稚園・こども園においては、教育方針を『「やってみたい」「なぜだろう」「もっとやりたい」と実感できる保育の実現』と設定し、「小学校との相互連携と子どもの育ちと学びをつなぐ円滑な接続」を実践課題として、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を目指しています。

その中で、令和4年度から3年間、文部科学省の「幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業」におけるモデル地域の1つとして岐阜県が委託され、土岐市がその実施地域となりました。そこで、本市では、泉西小学校区（泉西小附属幼稚園・久尻保育園・泉西小学校）を協力園・小学校に指定し、市教育研究所と連携しながら、幼保小の協働による「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導改善プログラムの開発・実践に取り組んでいます。

## 2 取組

泉西小学校区では、子どもの実態を基にして目指す子どもの姿を明らかにし、幼保小が共通して「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の1つである「言葉による伝え合い」の力を育成したいと考えました。そこで、毎月、幼保小の代表者と市教育研究所の担当者が集まって「がやがや会議」を開き、「言葉による伝え合い」の姿を高めることを重点として、子どもたちの育ちと学びの共有や子ども同士の交流活動の打合せなどを行っています。また、会議を通して、5歳児から小学校第1学年の「架け橋期」における「言葉による伝え合い」に関わる題材・単元を整理した「接続期マップ」を作成しました。そして、幼保小の取組全体を捉えることによって、お互いの取組を把握し、年間の見通しをもって実践したり、連携を推進するためのきっかけに役立てたりしてきました。さらに、幼保小で連携した取組を振り返ることによって、次年度に向けた取組の工夫改善や他校区の参考として活用できるように、取組の歩みをまとめた「連携のあしあと」を作成しました。こうした取組の過程や資料作成の意図を市内他校区や県内外へ紹介し、広げることができるように、「開発の手順と解説」についてもまとめました。

いずれの資料においても、内容の検討・修正を重ねながら、よりよいものに改善してきました。こうした資料を拠りどころとして、「幼保小の架け橋プログラム」の開発・実践に取り組んでいます。

5月と8月には、地区別カリキュラム開発会議を開催し、東濃教育事務所の担当主事にもご参加いただきました。9月には、地区別研修会を開催し、2名の県カリキュ



「がやがや会議」における資料の検討

ラム開発会議委員を講師としてお招きして、取組に対するご指導・ご助言をいただきました。

10月には、「幼保小の架け橋プログラムのモデル地域における成果に係る調査研究」実地調査が2日間に渡って行われました。文部科学省教科調査官や大学教授、県教育委員会担当者など複数名が、泉西小附属幼稚園・久尻保育園・泉西小学校それぞれを訪問し、保育・授業の視察や園長・校長と学級担任へのインタビューが実施されました。泉西小附属幼稚園の保育では、事前に5歳児が「運動会のリレーで速く走るコツ」を尋ねた手紙の返事が小学生から届き、歓声を上げながら、嬉しそうに手紙を読んだり実際に手を振って走り方を試したりする姿が見られました。また、園長・校長と学級担任へのインタビューでは、本取組を通して、「幼保小の壁が低くなり、お互いが身近な存在になった」という声が聞かれました。11月には、岐阜県による教職員向けの研修動画作成のためのDVD撮影もあり、発達段階に応じた「言葉による伝え合い」の姿や指導の違いを確認することができました。

以上のような取組については、市教育研究所担当者が毎月行われる市内小中学校の校長会や教頭会にて、進捗状況を紹介してきました。また、12月には、市内幼稚園・こども園・保育園の園長会や副園長会、教務主任会にて、市教育研究所担当者と泉西小附属幼稚園園長が「幼保小の架け橋プログラム」の目的や国・県・市の取組状況、泉西小学校区の実践等を説明しました。参加者からは、多くの質問が出され、関心の高さが伺えました。



### 3 成果と課題

これまでの取組による成果としては、「がやがや会議」の開催やカリキュラムの作成を通じた協議や協働を積み重ねることによって、幼保小の関係構築や相互理解が深まったことが挙げられます。お互い感じていた遠慮や躊躇が減り、気軽に連絡や相談、提案をし合うことができるようになりました。また、「言葉による伝え合い」の姿を高めることを幼保小共通の窓として、子どもたちの姿を振り返ることができるようになってきました。一方、課題としては、会議の日程調整の難しさや園・学校間の物理的距離などが挙げられます。このことについては、今後、泉西小学校区以外の校区において、取組を広げていくときにも、課題となると考えられます。また、幼児施設類型による取組状況の違いが生じることも予想されます。これらのことは、全国のモデル地域においても同様に課題として挙げられています。

### 4 終わりに

来年度は、泉西小学校区の取組を参考にして、市内他校区にも取組を広げていきたいと考えています。ただ、新しい活動をつくり出すのではなく、これまで行ってきた活動や作成した資料を整理し、幼保小の「円滑な接続」という意識で見直しや強化を図ることが大切だと捉えています。幼保小の相互尊重を基底に置き、幼児教育と小学校教育の双方から、無理なく段階的に協働を深めていくことができるように、市教育研究所も子育て支援課等の関係部局と連携しながら支援していきたいです。